



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道における日本ナザレン教団の教会建築について(その二) : 正面(立面)形態についての考察
Author(s)	千里, 政文
Citation	基督教学, 26, 30-37
Issue Date	1991-07-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46496
Type	journal article
File Information	26_30-37.pdf



北海道における日本ナザレン教団の 教会建築について（その二）

——正面（立面）形態についての考察——

千里 政文

一 はじめに

本稿はキリスト教の伝道により建設された教会建築の形態に視点を置き、北海道の一教派における立面形態の変遷について、プロテスタント教会の一教派である日本ナザレン教団の北海道に現存する五棟を対象として、その特徴について若干の考察をする。

二 日本ナザレン教団の北海道伝道

明治三十八年に「キリストのホーリネス教会」が日本において伝道を開始したが、明治四十一年同教会がナザレン教会と合同した事が、日本におけるナザレン教会の

最初の伝道活動となった。

北海道における伝道は、昭和二十一年当時、札幌市内の中島公園入口に在住していたG H Qの少佐であるメージャー・シヨウ夫妻による日曜学校の活動からはじまり、来道したパワーズ監督がナザレン教団本部と話し合い、昭和二十四年に北海道における最初のナザレン教会が札幌市に設立された。当時のG H Q米軍人及びその家族は、日本人と交わる事を許可されていなかったが、夫妻はあえて伝道を開始したと考えられる。

三 北海道内の五教会と教会設立

△札幌教会の設立▽ 札幌教会の設立はメージャー・シヨウ夫妻の努力によるところが大きく、当時日曜学校の子供達の人数は二百人を越えるようになり、来道したパワーズ監督が日曜学校の働きを見て恒久的な教会にするため、教団本部は別府教会の大江信牧師、当教会の初期牧師に任命し同二十四年に赴任した。また設立については前記とする。

△上声別教会の設立▽ 昭和二十四年、札幌教会に赴任した牧師は、直方市の教会員である工藤正子一家が上声

別に在住していることを聞き、次年の二十五年から札幌教会牧師と上芦別の一家との間に交流が行われ、上芦別における伝道のきっかけとなった。最初は工藤宅において月に一度家庭集会が行われていたが、三菱炭坑の幼稚園の先生達や多くの人が加わるようになり、集会所を三菱炭坑の幼稚園に移し伝道が行われた。同二十七年には会堂及び牧師館が建てられ同教会の設立となった。

当時上芦別の町は炭坑が活発な時期にあり、その人口は約六万五千人に上り、平成二年現在では炭坑の閉山などにより二万五千人となったが、急激な人口減を考えても当時においては、伝道が活発に進められていた事がうかがえよう。

△弟子屈教会の設立▽ 当教会においても上芦別教会同様、昭和二十五年札幌教会の大江牧師が、京都の喜田川牧師より、弟子屈に神学校を卒業した中出夫妻がいると聞き、弟子屈を訪問した事が伝道の始まりとなり、同二十七年には弟子屈に会堂が建てられ同教会の設立となった。

△旭川・室蘭教会の設立▽ 旭川の伝道は昭和三十四年頃始められ、会堂が同三十四年に建てられ同教会として設立した。伝道の過程については、旭川市の前野市長時代にナザレン教会あてに、ミッションスクールを誘致し

たいとの要望があり、そこで宣教師を来旭させたが誘致にはいたらなかった。しかし、その事をきっかけとして旭川での伝道が開始され現在に至っているが、その過程の詳細については不明である。

室蘭の伝道開始時期は同四十四年頃で、当時上芦別教会出身の金子夫妻（当時札幌教会に籍をおく）が室蘭に住居を移しており、夫妻の働きが伝道のきっかけとなったと考えられる。そして、同四十五年には、会堂が建てられ室蘭教会の設立となった。

四 北海道内の五教会と教会建築（表―1）

△札幌教会▽ 初期会堂は木造平家一部二階建、切妻屋根で、妻側が正面となり、正面の中央には独立塔があり、壁面形は長方形上部に三角形の付いた形で、塔を中心に左右対称となっている。

現会堂については木造平家一部二階建ではあるが、妻側にある正面からは、切妻の屋根が見えない様になっている。壁面形も台形となり、塔が無くなっている。

次にこの二棟の建築過程を述べると、初期会堂は、昭和二十五年に建設する予定であったが、事情により同二

表一 13棟の建築年代と床面積

教 派 名	会 堂 名	建築年代	会 堂 延床面積	礼拝室 床面積	講 壇 床面積	固定席数
日本ナザレン教団	札幌初期会堂	S. 26	—	—	—	—
日本ナザレン教団	札幌現会堂	S. 46	317.55	93.87	9.00	112
日本ナザレン教団	上芦別初期会堂	S. 27	91.53	58.86	9.72	48
日本ナザレン教団	上芦別現会堂	H. 2	115.56	64.80	12.69	—
日本ナザレン教団	弟子屈初期会堂	S. 27	—	—	—	—
日本ナザレン教団	弟子屈前会堂	S. 40	121.32	51.30	9.72	48
日本ナザレン教団	弟子屈現会堂	S. 63	121.32	51.30	9.72	48
日本ナザレン教団	旭川初期会堂	S. 34	185.90	82.89	14.65	48
日本ナザレン教団	旭川現会堂	S. 58	239.94	108.81	8.64	48
日本ナザレン教団	室蘭現会堂	S. 45	125.43	25.92	3.00	28
日本ホーリネス教団	札幌現会堂	S. 40	—	44.71	—	—

注) 会堂延床面積には牧師館床面積は含まない。—は不明を示す。

十六年に延期され、同年に起きた朝鮮動乱によって建築資材額が二倍となり、建築規模を当初の半分に縮小せざるをえなくなった。

同四十六年には、教会創立二十周年記念行事として、教会学校などの六教室が正面の前面部分に増築され、現会堂となった。

ハ上芦別教会V 初期会堂は木造平家建切妻屋根で、妻側が正面となり、正面中央には独立塔（ポーチ上から）があり、壁面形は長方形上部に三角形の付いた形で、塔を中心に左右対称となっていた。また、ポーチ壁面には正方形上部にアーチの付いた凹部が付けられている。

現会堂については木造二階建、片流屋根の建物で、角地であったため隅切りされた部分が正面となり、正面からは片流の屋根が見えなく、壁面形は長方形上部に三角形の付いた形で、壁面には縦に長い長方形上部にアーチの付いた凹部を付けているが、塔は無い。

次にこの二棟の建築過程について述べる。昭和二十五年当時、北海道に駐屯していた米国オクラホマ州の兵数名が札幌教会に出席していた。そして、オクラホマ第一教会では、毎年オクラホマ市の内外に新しい教会を建てる事となっていたが、建築資金の大部分を上芦別教会初

期会堂の建築費用にあてる事となった。昭和二十七年には三菱炭坑の社員が設計に関与しながら進められ、三菱の会社と交渉し、会堂のための敷地を購入、同会社営繕課（建築課）の白石氏の実力によって、関連会社による工事が行われ、初期会堂が建てられた。

昭和三十三年には、会堂に付属している牧師館部分の増築が行われたが、建物の老朽化や会堂機能の低下などが生じて問題となった。

そこで、建築資金として初期会堂と土地を売却し、伝道の発展を目指して上芦別町の駅前角地の呉服屋を購入した。北海道東海大学教授川島洋一・筆者の設計により建物内・外部ともに増改築を行い、平成二年から現会堂で伝道活動を行っている。

△弟子屈教会V 初期会堂は木造平家一部二階建、切妻屋根で、平側が正面となり、正面の右端には独立塔があり、壁面形は長方形であった。

また初期会堂正面に増築された前会堂は木造平家一部二階建切妻屋根で、妻側が正面となり、正面の中央の屋根上部に塔が付けられ、正面壁面中央に縦方に凸部を付け、壁面の一部が独立塔の様に見える。壁面形は長方形上部に三角形の付いた形で、塔的部分を中心に左右

対称となっている。

次に現会堂については、前会堂の壁面を外壁材料であるサイディング（新建材）で覆っただけであり、基本的な正面形態は前会堂と変わってはいないと言える。

次にこの二つの建築過程を述べると、初期会堂は、当初の計画において弟子屈の施設である青年会館の購入を考えていたが、地方自治法により教会施設としては許可がおりず、寺の土地内の建物を購入（木材関係者の所有物）した。しかし寺の反対にあい、再度別の土地を購入し、その建物を売却して、代わりに建築材料で返済してもらい、初期会堂の材料に使われ、昭和二十七年に当会堂（現在の牧師館部分）が造られた。この工事は、初代牧師の中出清氏によると、当時の日本基督教団釧路教会会堂を見学して当会堂建築の際に参考とし、弟子屈の宮下大工や家庭集会に出席していた会員などによって行われた。

昭和四十年に増築された前会堂の建築過程については、信徒数が増えるに従い礼拝室や集會室が狭くなった事が主な理由であると考えが、その設計などの詳細については不明である。

また昭和六十三年には新牧師を迎えるにあたって、寒

さ対策や建物の老朽化から会堂の外壁を修繕し、現会堂の外観となり今日に至っている。

△旭川教会▽ 初期会堂は木造平家一部二階建切妻屋根で、角地であったため隅切された部分が正面となり、その中央の屋根上部に塔が付けられ、壁面には縦に長い長方形上部に尖頭アーチの付いた凸部を設けた事によって、壁面の一部が独立塔の様に見える。壁面の形は長方形上部に三角形の付いた形で、塔を中心に左右対称となっている。

現会堂については鉄筋コンクリート造二階建陸屋根の建物で、妻側が正面となっていて、その壁面形は陸屋根のため横に長い長方形となり、塔も無く、初期会堂とは異なった正面形態となっている。

次にこの二棟の建築過程を述べると、初期会堂は、昭和三十四年に市民運動によって、工事が中止となった自動車工場を買い取り、会堂建築に変更して造られた。また、建物の老朽化により、昭和五十八年には現会堂に建て替えられた。

△室蘭教会▽ 会堂は木造平家一部二階建片流下屋付きの屋根で、妻側が正面となり、塔などは無く、壁面形はし字型を立ち上げた形となっている。

建築過程については、昭和四十五年当時に建てられた他の教会で、室蘭教会の予定していた建築規模とほぼ同じと思われた会堂の設計を基本にして、室蘭教会の会堂が建てられた。

また、建築に関係していた金子氏（教会員）によると、日本ホーリネス教団札幌教会に類似させたとの事であり、保存されていた二棟の図面でもこの点については明らかである。

五 正面（立面）形態についての考察（図―1）

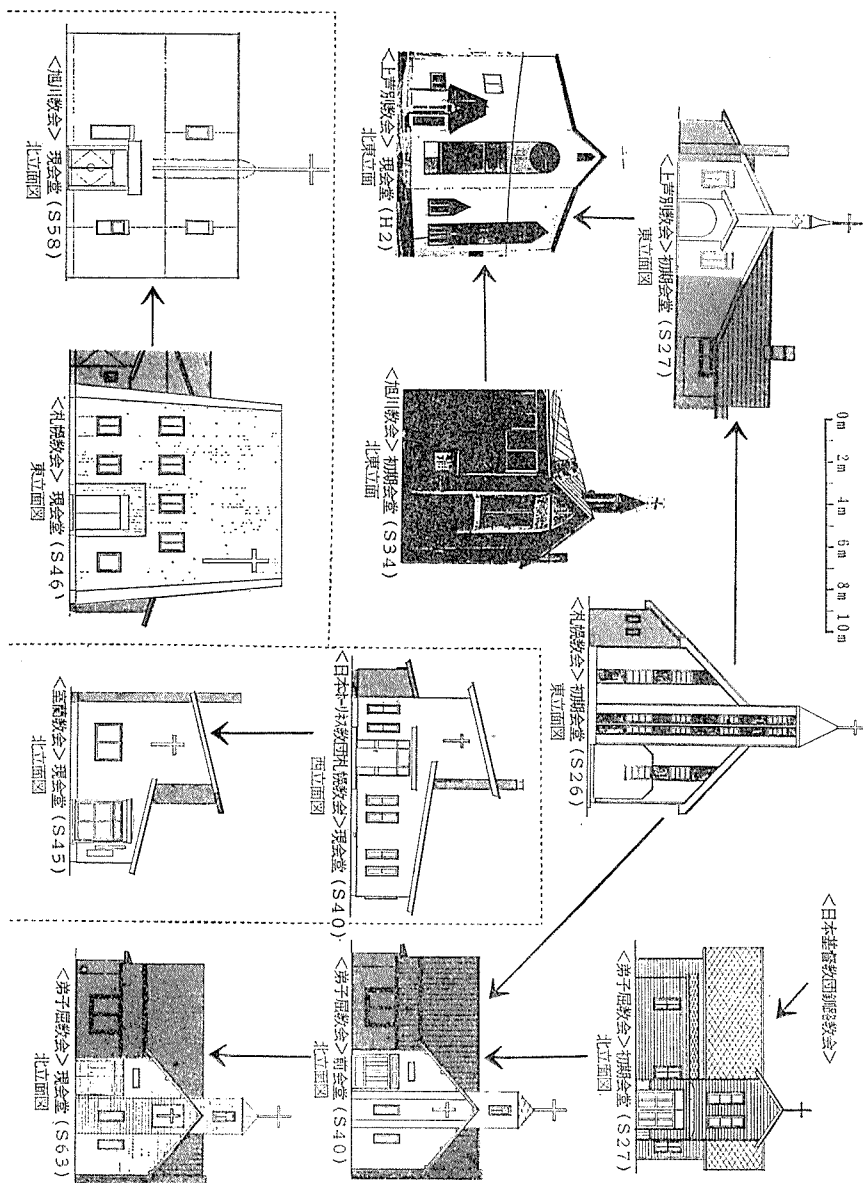
以上、本稿で述べた教会の正面形を図―1に示し、「方向性、壁面形、塔の形、バランス」の四つの要素から、各教会における正面形態の関係について考察を行う。

これらの形に着目すると次の二つの関係に分ける事ができる。

①各要素が類似している会堂

△四要素類似形▽ 弟子屈教会の前・現会堂、札幌・上声別・教会の初期会堂は、切妻屋根で妻側が正面で正面の中央には塔があり、壁面形は長方形上部に三角形の付いた形をしていて、塔を中心に左右対称となっている

図—1 北海道における日本ナザレン教団の会堂立面形態の変遷



ど、正面形の四つの要素が類似している。特に塔の形については、札幌の会堂や上芦別の会堂では独立塔を付設する事により上昇性を強調し、他の会堂においては独立塔は無いものの、建物上部に塔を付けて上昇性を表している。

すなわちこれらの四棟の会堂正面形は同じである事が明らかになった。この事は、札幌の初期会堂が建築年代でも最も古く、札幌教会初期会堂の正面パターンが、他の教会にも踏襲されているため同じ正面形になったものと考えられ、四つの要素が類似したと思われる。

△四要素変形型▽ 上芦別の現会堂は、既存の建築を増改築している事や、角地に建物が有る点などから、旭川の初期会堂と似た建築条件で造られている。

また、正面の要素は、隅切りされた部分が正面で、壁面形は長方形上部に三角形の付いた形をしており、旭川・上芦別初期会堂正面形の要素と類似している点があるが、塔は付いていない。しかし壁面に縦に長い長方形上部にアーチの付いた凸部を設ける事によって、壁面を塔の様に見せている。

すなわち、旭川・上芦別教会初期会堂の壁面やポーチ壁面部分にある凸凹部の形を意図的に踏襲した形であ

り、当会堂においては、旭川・上芦別教会初期の影響を受けていると考えられ変形型と言える。

②塔の無い会堂

弟子屈教会の初期会堂、室蘭・札幌・旭川教会の現会堂は、壁面の形は長方形上部に三角形は無く、塔も付いていないなど、札幌の初期会堂正面形態とは異なっている事がわかる。

弟子屈の初期会堂においては、弟子屈に近い日本基督教団釧路教会の会堂を参考としたが、この会堂は礼拝室や集会のためのスペースが狭く、会堂と言うよりも牧師宅の柵側に独立塔を付けた建物である。

室蘭の現会堂については、壁面形が札幌の日本ホーリネス教団の会堂と正面の四つの要素が同一であり、他教派である日本ホーリネス教団の正面形を踏襲したと考えられる。

札幌の現会堂については、初期会堂が他の会堂の正面形態に影響を与えていたにもかかわらず、塔をなくし、壁面形についても切妻の屋根面が見えない形にするなど、初期会堂とは異なった形となっている。この事は、建築法規などの高さ制限により、塔を建てる事が困難であるなどの諸問題の対処として、当時商店建築などに多

く見られた壁面を看板として使用する方法を用いて、塔の代わりに壁面に十字架を付けたと考えられる。また壁面形は台形となり、塔が無くなるなどで上昇性がおさえられたものと考えられる。

旭川の現会堂の正面形態についても、札幌の現会堂と同じ様に、初期会堂とは異なった形となっている。これは木造から鉄筋コンクリート造と変化した事が大きく、特に旭川の現会堂においては陸屋根としたため、壁面形は横長長方形となり、塔がないため、上昇性よりもむしろ横に広がる形となったと考える。

六 おわりに

以上の事から、北海道における日本ナザレン教団に所属する教会建築の正面形態は、札幌教会の初期会堂と他の会堂との間に類似する点が多々あった事が特徴である。

しかし札幌教会の初期会堂の正面パターンと異なっている室蘭教会においては、正面形は他の教派である札幌の日本ホーリネス教会と類似していると考えられる。

すなわち、道内の日本ナザレン教団の十二棟の会堂に

おける正面形態づくりは、札幌の教会の正面形の踏襲形が多いと考えるならば、道内の伝道行為が札幌教会を基点とし始められた事と、同教会と関係のある信徒が他の会堂建築の際に、なんらかのかたちで関与した事が原因と言えよう。

本稿では、北海道の日本ナザレン教団の教会建築が類似形と変形型に分類されている事への考察を行なったが、今後は他の教派についても研究を進める。